



森のちやれんがニュース

2017 秋


スピードガンコンテストに挑戦

特別展「プレイボール!」では、多彩なゲストによる講演をはじめ、多くの関連イベントを開催しました。なかでも白熱したのが、連日小学生が列をつくって参加した、「スピードガンコンテスト」。参加者は、それぞれの投球フォームで送球を披露し、ボールの速度を競います。予想外の速球に、感嘆の声をあげるギャラリーが、会場を盛り上げます。悪天候の日もありましたが、7日間で、総勢284名のピッチャーが参加しました。

年度の後半も行事は目白押しです。森林公園内で植物や動物の生態を探る

「自然観察会」。アイヌ民族の編み物など、何かをつくったり、動物を解剖したり、手を動かして学ぶ「ちやれんがワークショップ」。小・中学生向けの「ちやれんが子どもクラブ」では、化石のレプリカづくりや、アイヌ語・アイヌ音楽に触れる機会を提供します。最新の研究を紹介する講演会や、アイヌ語講座、古文書講座、アイヌ音楽ライブやバックヤードツアーなど、博物館に足を運びきっかけにいただけるよう、まだまだ行事を用意しています。

詳細をぜひ、別誌「行事あんない」やウェブサイトで、ご確認ください。



CONTENTS

- ② 展示会レポート
展示が紡ぐ、野球の「物語」
- ③ 展示会予告
第9回企画テーマ展「弥永コレクション」
- ④ 研究活動紹介
シマフクロウの歴史をひもとく
- ⑥ ピックアップ
北海道博物館の学芸員実習
- ⑦ アイヌ民族文化研究センターだより
- ⑧ 行事のおしらせ/活動ダイアリー

展示会レポート

展示が紡ぐ、野球の「物語」

少年野球、高校野球、社会人野球、プロ野球。プレイする人、それを観る人、応援する人、漫画やゲームでそれに触れる人。老若男女を問わず親しまれる、そんな野球に着目した特別展「プレイボール！—北海道と野球をめぐる物語—」（2017年7月8日～9月24日）。懐かしい、あるいは新鮮な展示を前に、異なる世代間で感想を述べ合うグループをたびたび目にします。幅広い世代に向けて、これまでになく、多種多様な関連イベントも行いました。ありし日の野球の物語に触れ、自身の野球の物語が沸き起こる。展示や講演会で、そんな心地を得た方が、少なくないのではないのでしょうか。誰もが、野球の物語をもっている、という物語をも、この展示会は紡いでいます。

春木 晶子 (学芸員)



「ファイターズマスコットがやってくる！」(8月13日開催)に登場したB・B(北海道日本ハムファイターズマスコット)を囲み展示室内で記念撮影 三代にわたるグループでのご来館



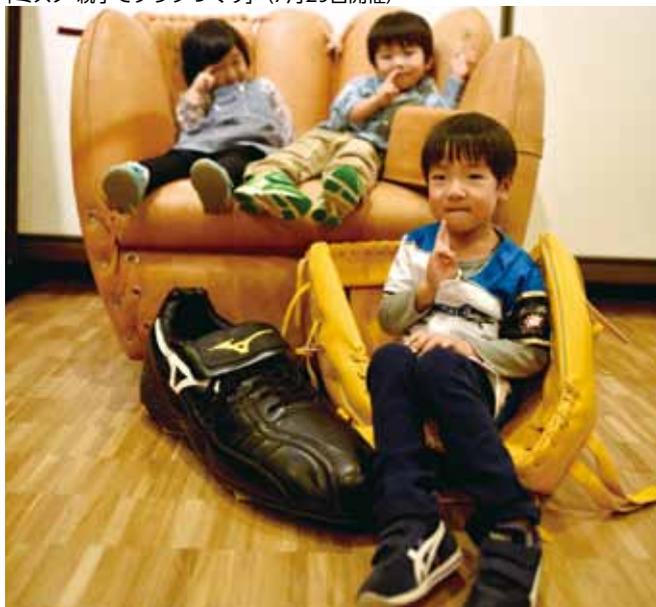
博物館寄席「北海道 野球の歴史でござります」(9月3日開催)



「ミズノ 親子でクラブづくり」(7月29日開催)



入場者1万人達成(8月18日) 1万人目は恵庭市 浜崎遼仁さん(小学2年生)



人気の撮影スポットになった巨大な野球用具(ミズノ協力の期間限定展示)

展示会予告

第9回企画テーマ展「弥永コレクション」



学芸主幹 堀 繁久

1961年、札幌市生まれ。1999年より北海道開拓記念館(現北海道博物館)学芸員。専門は博物館学、昆虫学。

砂金や砂白金を見たことはありますか？キラキラと美しい光沢を放つ北海道を代表する天然の鉱物です。2016年、日本地質学会は、全国47都道府県に特徴的に産出する、あるいは発見された岩石・鉱物・化石をそれぞれの「県の石」として選定しました。北海道からはかんらん岩(岩石)、砂白金(鉱物)、アンモナイト(化石)が北海道の石として選ばれています。北海道の石となったかんらん岩とアンモナイトを見たことはあるかもしれませんが、北海道の鉱物である砂白金の実物を見たことはないのでは？

2017年10月20日から開催する『弥永コレクション』では、北海道の鉱石の一つに選出された砂白金を始め、弥永芳子氏の寄贈資料を紹介します。弥

永氏は、貨幣と砂金・砂白金の研究を長年続けられ、研究資料として多くの資料を収集された方です。1985年には収集された資料を公開するため私設博物館「弥永北海道博物館」を開館されました(2015年閉館)。著作としては、『北海道の貨幣』、『北海道の砂金と砂白金』、『日本の金』など、多数の本を執筆されています。

本展示会の注目の資料は、北海道の河川から採取された日本最大の砂白金塊と、現存しているものでは国内最大と考えられる砂金塊です。普段は、取蔵庫奥の金庫に厳重に保管されている資料で、本展示会で特別に公開されます。是非、この機会になかなか実物を見ることのできない北海道で採れた砂白金塊と砂金塊を見にいらしてください。



外国製コイン

それ以外にも、北海道で発見された貴重な陸カメ化石やナンヨウシダの化石、日本及び世界各国の貨幣、考古資料、アイヌ資料、絵画、砂金掘り道具、琥珀、貝など様々な資料が展示されます。

この秋、野幌森林公園の紅葉と北海道博物館で開催される企画テーマ展「弥永コレクション」を見に来ませんか？

堀 繁久(学芸主幹)



亀の化石



砂金塊、砂白金塊、銀塊



砂金掘り人形

研究活動紹介

シマフクロウの歴史をひもとく

学芸員 表 深太

1987年、東京都出身。2015年より現職。専門は動物学。博士(理学)。



北海道博物館では、2017年4月28日から6月4日にかけて、第8回企画テーマ展「夜の森ーようこそ！動物たちの世界へー」を開催しました。野生動物が活発に動きまわる夜の森を体感してもらうために、夕方から夜明けまでの北海道の森をイメージした会場に動物の剥製を配置しました。真っ暗な中、ライトを向けると目が光るエゾシカや頭上を滑空するモモンガがとくに

人気で、累計で1万人以上の方に足を運んでいただきました。また、同時開催の写真展「あなたの街のコウモリの森」も好評で、動物写真家中島宏章氏の躍動感あふれる写真に多くの方が見入っていました。

この展示会は、私がシマフクロウの研究のために夕暮れの森を歩きまわった経験がひとつのヒントになって生まれました。今回は、シマフクロウ研究

の最近の成果をご紹介します。

シマフクロウは、北海道やロシアの極東地域にすむ世界最大のフクロウで、川沿いの森でおもに魚を食べてくれています。北海道とロシアのシマフクロウでは、鳴き声や模様がちがうことから別の亜種だと考えられてきましたが、詳しい関係については調べられていませんでした。



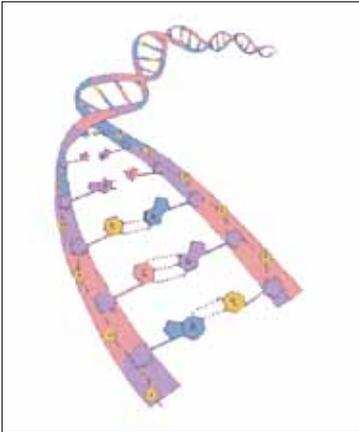
企画テーマ展「夜の森」に展示したシマフクロウ



企画テーマ展「夜の森」に展示した滑空するモモンガ



写真展「あなたの街のコウモリの森」



DNAの構造



シマフクロウ幼鳥 (北海道)



シマフクロウ幼鳥 (ロシア極東)

そこで私は、環境省や多くの方のご協力を受けて、北海道内やロシアの森をまわり、シマフクロウの血液や羽根を集めました。血液や羽根などの体の組織からは、DNAをとりだして調べることができます。DNAは4種類のパーツが鎖のようにつながってできた分子で、生物の細胞のひとつひとつに入っています。生物の設計図はすべて、この4種類のパーツのならば方で記録されています。DNAの記録を解読することで、その生物の起源や系統、個体数の変化などをたどることもできます。いろいろな地域で集めたシマフクロウのDNAを解読して比べた結果、ロシアと北海道の系統の違いや進化の歴史がわかってきました。

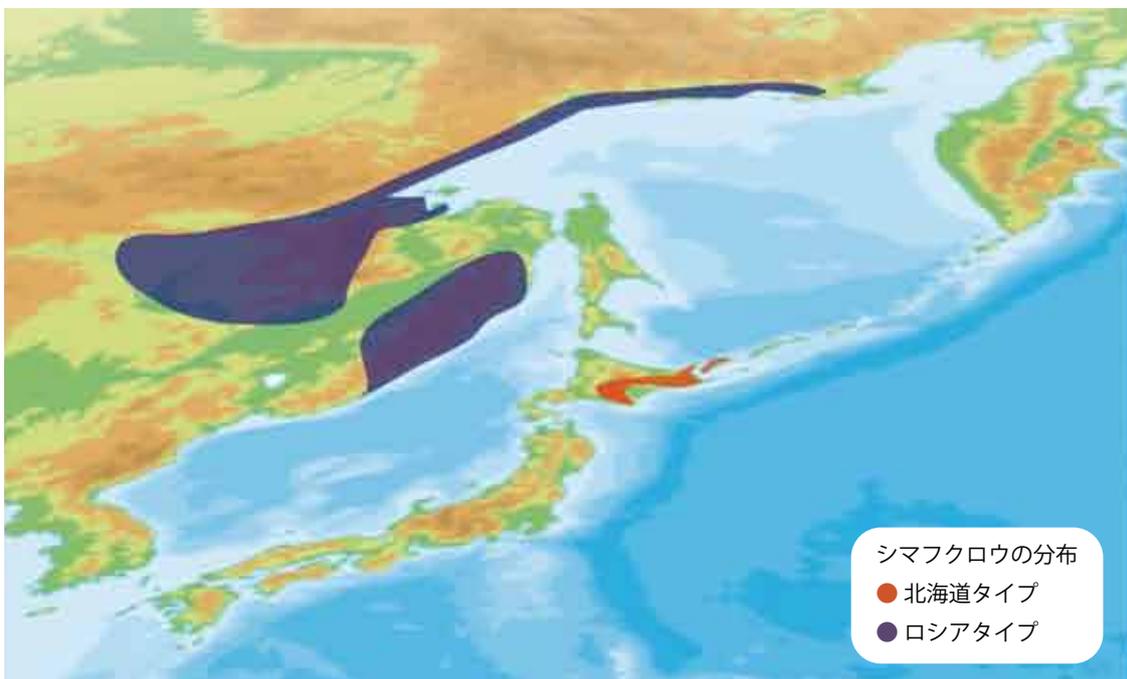
今の地球は寒い時代(氷期)とすこし暖かい時代(間氷期)を約10万年周期でくり返しています。北海道の動物の大半は、いちばん最近の氷期(約7万~1万年前)に大陸からやってきたと考えられています。そのため、北海道と大陸の動物は同じタイプの遺伝子をもっていることが多いです。ところが、北海道とロシアのシマフクロウでは共通のタイプがなく、50年以上も前に分かれて別の道をすすんでいることが明らかになりました。

さらに、DNAをつかって古い年代を調べてみると、シマフクロウの祖先はウオミミズクのなかまであることがわかりました。ウオミミズクも、おもに魚を食べるところはシマフクロウと

同じですが、ずっと小さくて東南アジアの熱帯地域にすんでいます。シマフクロウの祖先が、ウオミミズクのなかまから分かれ年代は、数千万年前だと推定されました。シマフクロウは、寒い北の地域に適応することで、今のすがたに進化してきたのでしょう。

今回の展示づくりでは、最新の研究成果も取り入れつつ、夜の森の雰囲気になるべく五感で楽しんでいただけるよう試行錯誤しましたが、資料が少なかったり演出が未熟だったり心残りもあります。これからも、自然や動物の魅力を楽しく伝えられる展示を目指して、いっそう精進していきたいと思っています。

表 溪太(学芸員)



シマフクロウの分布

ピックアップ

北海道博物館の学芸員実習

毎年恒例の博物館実習を、今年は16名の実習生に向けて、8月22日から9月1日までの10日間にわたり、行いました。

実習生は、資料の収集・保管、普及行事の企画、オーディエンス・リサーチ(来館者調査)、展示制作を実践。博物館のいわば「表」の仕事から、来館者には見えない「裏」の仕事まで、さまざまな仕事に携わりました。

実習の前半には、生活資料や考古資料のクリーニング、古文書の解読などを伴う、資料の受け入れ・整理作業や、野幌森林公園内での「自然観察会」の企画・模擬実演を行いました。総合博物館である当館の実習は、専門分野を異にする複数の学芸員が立ち替わり行うため、資料の保存や、行事の企画などに対する、分野により異なる方法や考え方に接することが、特徴と言えます。

多くの実習生が特に苦慮したと語るのは、後半の展示実習です。二つの班に分かれ、班ごとに一つの展示をつくります。A班は、当館の総合展示室で、テーマをまたぎ度々登場するヒグマに着目し、ヒグマに関わる民具とともに、ヒグマの生態を、目を引くデザインで展示しました。B班は、世代を超えて親しまれる、ままごと道具に着目し、その材質や道具の変遷に着目。両班とも、当館の来館者が、幅広い年齢層であることに鑑み、「大人」も「子ども」も楽しめることを目指したといい、「ヒグマ」や「ままごと道具」という親しみやすいテーマを選び、めくり式のボードやワークシートを用意するなど、工夫をしました。

展示制作の過程で実習生が交わした議論、例えば、「博物館展示が「子ども」向けであるのはよいことなのか」、「来館者が見たいものはなにか」、という問いは、わたしたち博物館スタッフが折に触れて問い続けなければならないものです。実習生の姿は、実習生同士のみならず、現役のスタッフにとっても、有難い刺激です。

春木 晶子(学芸員)



実習生による展示「ヒグマと北海道」と、展示をつくった実習生



実習生による展示「ままごと道具から見る過去と現在」



自然観察会の企画と模擬実演



考古資料の整理作業

アイヌ民族文化研究センターだより

「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」のご案内

「デジタルアーカイブ」と呼ばれるものがインターネット上に開設される例が増えてきました。ここでいう「アーカイブ」（アーカイブズとも呼ばれます）とは、様々な記録資料や文化的・歴史的資産を収集し、整理し、保管し、ひろく現在ならびに後世の人々に伝えていく施設や仕組み（機能）のことです。いま、各地の博物館や美術館、図書館などが、資料をデジタル化して、インターネット上に電子情報として公開し、ひろく共有・利用できるデジタルアーカイブの開設を進めています。

当館の前身の一つである旧北海道立アイヌ民族文化研究センターでは、所蔵する貴重なアイヌ語の物語や歌などの録音記録を、整理し保存してひろく公開する取組みを続けてきましたが、2012（平成24）年度から、インターネットを通じてこれらを検索し利用することができる「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」を開設しました。

北海道博物館へのリニューアル後は、当館ウェブサイト内に移設し運用しています。（URLは、<http://www.ainugo.hm.pref.hokkaido.lg.jp>）です。また当館ウェブサイトのトップページにあるメニューの「学ぶ」から「アイヌ文化を学びたい方へ」に進んでいただくと、「アイヌ語アーカイブ」の「資料を探す」のページに行くことができます。

「アイヌ語入門」というページも設けており、「アイヌ語ってどんな言葉？」「アイヌの口承文芸」「アイヌの芸能」と題した、わかりやすい紹介・解説も載せていますので、ぜひご利用ください。

■各地の博物館・大学などが開設している主なアイヌ語・アイヌ文化のデジタルアーカイブ

- ◇ 一般財団法人アイヌ民族博物館 (<http://www.ainu-museum.or.jp>)
「アイヌ民族博物館 アイヌ語アーカイブ」のほか「アイヌと自然 デジタル図鑑」なども開設しています。
- ◇ 千葉大学（人文社会科学部地域研究センター日本先住民地域研究部門）(<http://cas-chiba.net/japan/index.html>)
「アイヌ語音声資料アーカイブズ」のほか「アイヌ語児童教材」などを掲載しています。
- ◇ 平取町立二風谷アイヌ文化博物館 (<http://www.town.biratorihokkaido.jp/biratorinibutani/culture/language>)
「アイヌ口承文芸を見る、聞く」のほか、「アイヌ語・アイヌ口承文芸とは」などを掲載しています。
- ◇ 公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構 (<http://www.frpac.or.jp>)
「アイヌのお話アニメ」のページで同機構が制作したアイヌ口承文芸の視聴覚資料を視聴できます。

近年、アイヌ語やアイヌ文化の継承に向けた取組みの必要性が改めて指摘されるなか、アイヌ民族博物館（白老町）や千葉大学などでも、アイヌ語・アイヌ文化のデジタルアーカイブの開設が進められています。国（文化庁）でも、2013（平成25）年頃から、アイヌ語の保存・継承に向けたアーカイブ事業に取り組んでおり、アイヌ民族博物館のほか、日高地方の平取町立二風谷

アイヌ文化博物館が、アーカイブの開設を進めています。

来年2月から開催予定の第10回企画テーマ展「カムイとアイヌのものがたり」では、当館の総合展示やこれらのアーカイブで公開しているアイヌ語の物語を、アニメやイラストを使って紹介していきます。ぜひご来館ください！

小川 正人（アイヌ民族文化研究センター長）



ほっかいどうアイヌ語アーカイブ検索画面



アイヌ民族博物館アーカイブ画面

行事のおしらせ

10月～1月

※ 行事の申し込みについては、『行事あんない2017年度後期』もしくはウェブサイトをご覧ください。

展示会
企画テーマ展
「弥永コレクション」

10月20日(金)～11月26日(日)

特別展示室・無料


イベント
ちゃれんがワークショップ
アイヌ民族の編みものをつくるーエムシアツの技術で
プレスレットー

10月22日(日)10:30～15:30

講堂・無料

講師/大坂拓

定員/先着30名(事前申込、9月23日(土)より受付)

特別イベント
ミュージアムコンサート アイヌ音楽ライブ

11月3日(金・祝)12:00～13:00

記念ホール・無料

出演: MAREWREW(マレウレウ)

定員/先着100名(事前申込不要、直接会場へおこしください)

文化の日講演会

自然とつきあう技術ー民俗学からみた自然と人間ー

11月3日(金・祝)13:30～15:30

講堂・無料

講師/篠原徹氏(滋賀県立琵琶湖博物館館長・国立歴史

民俗博物館名誉教授・総合研究大学院大学名誉教授)

定員/先着80名(事前申込、10月3日(火)より受付)

ちゃれんが子どもクラブ

アイヌ音楽 うたおう・おどろう・ならそう・ひこう

11月11日(土)13:30～15:00

講堂・無料

講師/甲地利恵

定員/小・中学生先着40名(事前申込、10月12日(木)

より受付)

ミュージアムカレッジ

アイヌ民族の刀帯ーその変化を探る

11月19日(日)13:30～15:30

講堂・無料

講師/大坂拓

定員/先着80名(事前申込、10月20日(金)より受付)

ちゃれんがワークショップ

稲わらで縄をつくって、長なわとびに挑戦!

11月26日(日)13:30～15:30

講堂・無料

講師/池田貴夫・舟山直治

定員/先着40名(事前申込、10月27日(金)より受付)

ミュージアムカレッジ

江戸時代の日露紛争・フオストフ事件を読む

12月3日(日)13:30～15:30

講堂・無料

講師/東俊佑

定員/先着80名(事前申込、11月4日(土)より受付)

ちゃれんが子どもクラブ

文字であそぼう♪ 消しゴムはんこづくり

12月9日(土)13:30～15:00

講堂・無料

講師/春木晶子・三浦泰之・水島未記

定員/小・中学生先着30名(事前申込、11月10日(金)

より受付)

ちゃれんがワークショップ

博物館で新年祈願!? 日本の画材で絵馬づくり

12月17日(日)13:30～16:00

講堂・無料

講師/春木晶子・三浦泰之・水島未記

定員/先着30名(事前申込、11月18日(土)より受付)

特別イベント

博物館のバックヤードを見てみよう

12月23日(土・祝)、1月8日(月・祝)

①11:00～12:00

②13:00～14:00

収蔵庫・ボイラー室・保存処理室・展示場ほか(会議室

集合)・無料

講師/杉山智昭・山際秀紀

定員/各回先着10名(事前申込、11月24日(金)より受

付)

古文書講座

はじめての古文書講座①入門編(全3回)

1月7日(日)・21日(日)・2月4日(日)13:30～15:30

講堂・無料

講師/東俊佑

定員/先着80名(事前申込、12月8日(金)より受付)

ちゃれんが子どもクラブ

いのりのしるし? 絵馬づくりにチャレンジ

1月13日(土)13:30～15:00

講堂・無料

講師/春木晶子・三浦泰之

定員/小・中学生先着30名(事前申込、12月16日(土)

より受付)

活動ダイアリー

7月～9月

7月 1日 はっけんイベント「アイヌ民族のゴザ編み機でコースターを作ろう!」
開催(～9月30日)7月 8日 第3回特別展「プレイボールー北海道と野球をめぐる物語ー」
開幕(～9月24日)

7月 9日 ちゃれんがワークショップ「石器をつくる」開催

7月15日 特別イベント「北海道ジオパークまつり2017」開催
夏休み特別企画かるちゃんnet(文化施設連絡協議会)「てくてく、
べったん!かるちゃんスタンプラリー★」開催(～8月20日)

7月16日 講演会「一途一心の野球道」開催

7月17日 北海道みんなの日(総合展示室無料)

ミュージアムトーク「全島樺太実業野球大会」開催

7月21日 かるちゃんナイト2017に参加(赤レンガサテライト夜間解放)

7月22日 アイヌ文化巡回展(会場:羅臼町郷土資料館)開幕(～10月18日)

ちゃれんが子どもクラブ「ちいさな野球盤づくり」開催

7月26日 「博物館教育プログラム研修会」(第1回)開催

7月28日 「博物館教育プログラム研修会」(第2回)開催
2017サイエンスパーク(会場:札幌駅前通地下歩行空間)に出展
「ミズノ 親子でグラブづくり」開催

7月30日 ミュージアムカレッジ「明治・大正・昭和の日記に見る北海道と野球」開催

8月 1日 「小学生限定!スピードガンコンテスト」開催(～10日)

8月 5日 ちゃれんが子どもクラブ「トノサマバッタを追いかけよう」開催

8月 6日 講演会「日本野球界の現状と課題ー野球王国北海道を目指してー」開催

8月11日 ミュージアムトーク「ベースボールがやって来た」開催

屋上スカイビュー特別開放

かるちゃんnet(文化施設連絡協議会)「発見・体験・文化の夏〜
遊ぼう!学ぼう!あつぱつ・えぱつ〜」(会場:サンピアザの広場)
出張(～13日)

8月13日 「ファイターズマスコットがやってくる! B・B」開催

8月16日 ロシア・サハリン州に職員を派遣(～30日)

8月19日 ちゃれんが子どもクラブ「フェルトで野球のバットとボールのスト
ラップをつくろう」開催8月20日 ちゃれんが子どもクラブ「アオダモでコースターづくり」開催(北海
道森林活用課共催)

8月22日 博物館実習(～9月1日)

インターンシップ(～23日)

8月26日 講演会「ガンちゃん、北海道日本ハムファイターズを語る!」開催

8月27日 ミュージアムカレッジ「樺太全島野球大会」開催

9月 2日 ちゃれんが子どもクラブ「トコロテンの不思議」開催

「ファイターズマスコットがやってくる! ポリー」開催

9月 3日 特別イベント「博物館寄席」開催

9月10日 講演会「北海道高等野球連盟70周年を迎えて」開催

9月12日 カナダ・ロイヤルアルバータ博物館研究員招聘(～21日)

9月16日 ちゃれんが子どもクラブ「アンモナイトを解剖しよう」開催

9月17日 講演会「ブラバン応援 もうひとつの夏の闘い」開催

9月18日 ミュージアムトーク「野球盤ものがたり」開催

9月23日 ミュージアムトーク「暮らしのなかのストーブ」開催

屋上スカイビュー特別開放

9月24日 ミュージアムカレッジ「全道樺太実業野球大会」開催

来館者数

○2017年6月～8月

総合展示室 31,507人 特別展示室 13,698人 はっけん広場 6,569人

○累計(2015年4月～2017年8月)

総合展示室 302,512人 特別展示室 214,814人 はっけん広場 72,108人

森のちゃれんがニュース 第9号

発行日: 2017年10月17日

編集・発行: 北海道博物館

〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2

Tel. (011) 898-0456 Fax. (011) 898-2657

ウェブサイト <http://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp>

©Hokkaido Museum, 2017